

二宮町まちづくり評価委員会

1. 生活の質の向上と定住人口の確保

①各委員からの意見

- ・お年寄りにとって住みやすい町なのか疑問を感じている。
- ・高齢者をみんなで支え合う仕組みづくりが、本当に進んでいるのか不安。
- ・高齢者になってから他に住むことを視野に考えないようなまちづくりが必要。
- ・地域ごとに特性を捉える必要があり、不安をひとつひとつ解決していく必要がある。
- ・全体として縦割りの業務に対して評価している。業務としては実施しているため評価が高い傾向にあるが、政策に対し横断的に取り組む必要がある。
- ・政策として定住を位置付けているが、定量的に判断するのであれば、人口が減っているのに、政策はうまくいっていない。
- ・政策として子育て世代の定住をうたっているが、どちらが良いという訳ではなく、高齢者と若者どちらも網羅する必要がある。
- ・評価の際に、人口のみを増やすという考えだけではなく、企業や個人など税金を納めていただく人を増やす必要がある。
- ・子育てが充実しているに越したことはないが、二次要因であり、働く場所がないことが、一次要因である。
- ・二宮町の産業社会を構築する必要がある。
- ・これが欲しいと思った時に、すぐに得られる環境でなければ魅力がなくなる。ニーズ、シーズが揃っている必要がある。
- ・生活するには仕事がないと成り立たないため、仕事を得られる環境でなければならない。
- ・二宮町単独のスポットだけではなく、住みやすさを強調して、どのようにパイプラインを構築していくかが大事であり、小さな町のスピードの良さを活かしていく必要がある。
- ・二宮町は生活の買物などを不便に感じている。
- ・商店街が元気がなく感じている。元気がない商店街に共通しているのは、物を売るだけで、元気な商店街はこと（事）を売っている。
- ・高齢者福祉、子育て福祉などの福祉だけの視点ではいけない。戦略的に商店街を良くすることも大事。
- ・買物などの生活が充実していなければ不便さは解消されない。
- ・政策として引き続き進めるべきかどうかという視点では問題ない。
- ・住民の受動的な問題解決から、積極的に自治体に働きかけることが「生活の質の向上」につながる。
- ・特に「高齢者等の安心な暮らし支援」については、「地域包括ケア」の取り組みが大切。

②まちづくり評価委員会としての意見

| | |
|------|--|
| 評価指標 | |
|------|--|

生活の質の向上と定住人口の確保として政策を引き続き進めることは必要と考える。

政策の評価判断を定量的にするならば、定住人口の確保ができていないため、政策がうまくいっていないと判断できるが、個別の施策は着実に実施されている。縦割りで評価した結果、評価が高い傾向にあるが、政策をより効果的に推進していくためには、横断的に取り組むことが必須と考える。

生活の質の向上においては、地域ごとの特性・シーズを、子供から高齢者までの幅広い年齢層のニーズに適合させるよう、必要な対策を講じることが重要である。買物や交通環境などの地域課題をひとつひとつ解決していくことが重要であると考えます。

特に商店街を元気にするために、物を売るだけでなく、「こと（事）」を売るという視点が重要であり、戦略的に商店街を良くすることで、生活の充実に繋げることが必要である。

定住人口の確保においては、働く場所がないことが人口流出の一次要因となっていると考える。定住に必要な仕事を二宮町単独で考えるのではなく、近隣市町と連携することで、働く場所の確保をし、二宮町では住みやすさや小さな町のスピードの良さを強調して、定住人口の確保を図ることが必要である。

人口減少・少子高齢化が進行する今後は、広域的視点を持ちながら、住みやすさやコンパクトさを活かした政策を進め、現役世代が高齢者をみんなで支え合う「地域包括ケア」の仕組みづくりをすることで、生活の質の向上と定住人口の確保に繋がると考える。